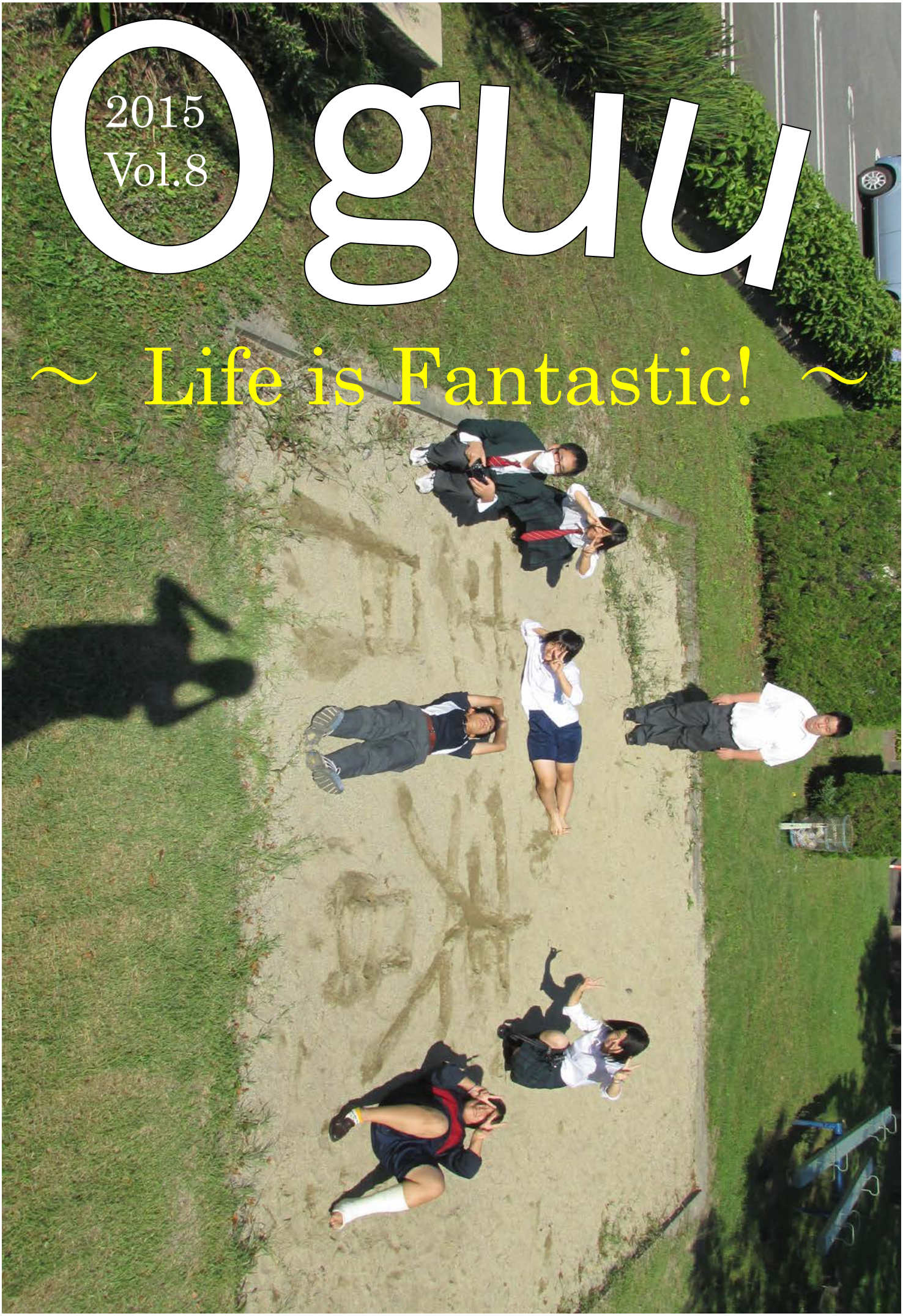
Oguu

2015
Vol.8

～ Life is Fantastic! ～



Ｏｇｕｕとは？

小国高校生が地域の魅力を発見し、発信する情報誌

テーマ　人生の素晴らしさを考える

～life is fantastic～

取材活動①　山口　ひとみさん（P4－5）

旬彩工房で働いています。主に、パンや野菜などを作っています。「食」について教えていただきました。

取材活動②　土屋　裕睦さん（P6－7）

「諦めない」ということの大事さを教えていただきました。

取材活動③　齋藤　嘉貴さん（P8）

「未来の可能性」について教えていただきました。

活動④　栃の実拾い（P9）

活動⑤　指導をいただいた呉先生の紹介（P10－11）

取材活動①　山口ひとみさん

取材日：6 月 23 日（火曜日）午後
場　所：本校応接室

☞ ☞ ☞プロフィールなど☞ ☞ ☞

○鳥取県出身
○《安全なものをおいしく食べてもらう》をポリシーに
　5 年前から旬彩工房をしている。

Q1, 東京を離れた理由
→人間らしく暮らすのが難しいと気づいた。子育てが厳しい。

Q2, 小国町を選んだ理由
→穀物関係のことで小国に来ていて、一緒に働いて、ご飯のセットを作ることができたから。
　小国は四季がはっきりしていて、自然にいつでも触れられる。
　できるだけ自給自足をすると、これから様々な面で活きることがあると思うが、それを小国町でなら実現できると考えた。

Q3, 東京で何をしていたか
→最初は、情報関係の会社に勤めていた。
　食の本当の意味などを教えている会社だった。

Q4, 食について学んでどのようなことを感じたか
→初めは怒りと悲しみがすごかった。ありのままの食品ではなく、薬などで作られたような食品を売っているのはいけないと思った。

Q5, 食と人とのかかわりについて
→食と人は密接なので、体＝命を育ててくれるものを食べてほしい。また、そのような食をみんなに広めたいと思った時には、意見をきちんという必要がある。その際、相手から反対意見を言われたとしても、自分の人間性に対して反対されているのではないので、自分を責めること

はない。

Q6, 今の仕事で心がけていること
→1番はきちんとしたものを作ること。（体にいいもの）
また、自分たちが楽しく働くこと。大変な仕事だけど自分が選んだ仕事だから、苦ではない。
自分のやりたいことを一生懸命やっていると、自然と心が通じ合える仲間ができる。その人たちとお互いにサポートし合える。挑戦してみて、無駄と思われるものは全く無い。
おそれずに、何かしらはじめないと何も始まらないし、失敗はたくさんしておいたほうが良い。

Q7, 今後の旬彩工房をどうしたいか。また、今後の意気込みは？
→この仕事は、自分たちで仕事を作り出せるという楽しさを味わえる。
これを「もっと」じゃなくて「ずっと」続けたい。必ず維持するつもりだ。
また、仕事と生活のちょうどいいバランスを保ち続けることが「ずっと」続ける鍵となる。
社会を良くしていくためにも、もっと活動を広めていきたいと考えている
自分も、仲間たちもこの仕事には大きなやりがいを感じている。
今では、小国町全体で年に1回、特産品をセットとして売り出してみようという提案があり、地域の中で何かできることを考えている。

Q8, 今後の人との関わりについて
→共感できる人と一緒に、これからも仕事をしたい。わからない人、困っている人にも少しでもわかってもらえるように、はたらきかけをすることが大事なのではないか。

Q9, 人生の素晴らしさとは
→生産者はおいしいと言われるだけでうれしい。また、自分の思いが届いて、共感することで響きあい、さらなる出会いにつながったり、仕事につながったりすることがある。
その際、自分の価値観もほかの人の考えも大切にしたいと考えている。
お互いに認め合える仲になれるということの喜びは本当に大きい。
挑戦はどんどんすべきだし、自分が好きなことがどうやったら役に立つのかを考えてみるといいと思う。

自分のやりたいことに真っ直ぐに進んでいる山口さんは素晴らしいと思った。自分のやりたいと思ったことに、どんどん挑戦したい。（山村晃生）

取材活動②　土屋　裕睦さん

取材日：7月 14 日（火曜日）午後
取材場所：小国高等学校１年２組教室

☞☞☞プロフィールなど☞☞☞
○小国町出身
○西置賜行政組合消防署小国分署勤務（取材当時）

Q1　この職業に就こうと思ったきっかけは？
消防士になろうとしたきっかけは、休みが多いから。
しかし、訓練などを行っていくうちに、消防士という仕事が助けを求めている人たちにとって、どれだけ大きな存在なのかということを、強く実感するようになった。
同時に、自分も人を助けたいとものすごく強く思うようになった。

Q2　仕事をするうえで気を付けていることは？
消防士は人を助ける仕事だが、危険も伴う。だからこそ、『必ず帰ってくる』ということを忘れないようにしている。
そのためには、日々の訓練が必要不可欠だ。訓練には終わりがない。いつも緊張感を持って訓練し、それを仕事に活かすことで、人を助けうると考えている。
また、講習会なども含めて、小さい子どもさんから高齢者まで、幅広い年齢層の人と触れ合うことがある。だから、誰とでもコミュニケーションが取れなければならない。人とのかかわりを大事にして仕事をしている。
さらに、消防士をやっていて心がけている事は相手の立場になって考えることである。
挨拶はもちろんのこと、細やかな気配り目配りなどをして、相手の立場に立って積極的に行動していくことを意識している。

Q3　僕たち小国高校生にアドバイスをお願いします。
高校生のうちに何事にも挑戦してほしい。
自分は、大学時代に高校時代の分まで苦労をした。大変だった。
高校生の時は、勉強など嫌なこともたくさんあるけれど、
高校時代に色々な経験をすることが、最終的には自分の大

きな力になる。

その時、大事なのは、あきらめずにやっていくこと。だれにでも挨拶をすること。そのことで、根気が付き自分の目指す目標や夢に一歩近づくことができる。

Q4　人生の素晴らしさとは？

大変なこともあるがそれを達成したときの喜びは大きい。

教えてもらったことは、社会で生きていくうえで必要不可欠なことであり、高校生活で延ばしていくことのできる事だと思います。

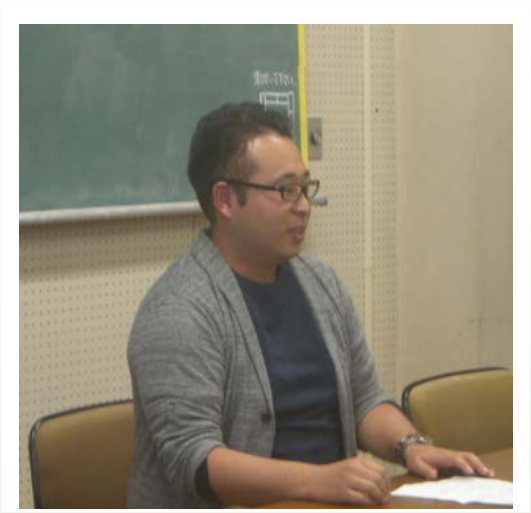
今回の学びから、今できることを一生懸命することで自分の目指していることに近づくことができる、人とのかかわりや相手を敬うことの大切さなどの、生きていくうえでとても大切なことがわかりました。裕睦さんから、大変なこともあるがそれを達成したときの喜びは大きいもの。このことを最後に聞いたとき、人生の難しさと同時に人生の素晴らしさも知ることができました。この体験を忘れず、自分たちのこれからに生かしていきたいです。（佐藤梨菜）

Oguu　特別企画PART1　～私たちの『Life　is　Fantastic！』～

小国のいい風景や『青春っぽいもの』を激写！

先輩から「人生」と聞く。フムフム

取材活動③　斎藤　嘉貴さん



取材日：7月 14 日（火曜日）午後
取材場所：小国高等学校１年２組教室

☞☞☞プロフィールなど☞☞☞
○小国町出身
○「満天の家」勤務

Q1　この職業に就くまで
　齋藤さんは、小国高校の卒業生で、生徒会長をしていました。専門学校卒業後に、高校時代には気付かなかった福祉職の魅力を感じるようになり、介護士という職に3年前に就きました。

Q2　現在の仕事内容とやりがい
　齋藤さんは、老人ホームで高齢者の方や認知症の方と一緒に料理を作ったり遊んだりしているそうです。介護士という仕事は、とても大変で、辛い時もあるが、高齢者の方々が自分の名前を憶えてもらえるだけで嬉しくなるそうです。

Q3　今後、どのようなことを頑張りたいか？
　毎日大変な仕事の合間を使って、「ケアマネージャー」という資格を取るために勉強しているそうです。介護や看護の仕事を5年以上しなければ取ることができない難しいものだと教えていただきました。

Q4　人生の素晴らしさとは？
　どの職についても忙しいのは当たり前で、その中で将来の自分のために一生懸命になっていれば楽しいことがあるとおっしゃっていました。

活動④　栃の実の可能性を探る

小国高校敷地内からとれる栃の実を使って何かできないか…と考え、まずは採集し、加工の工程について調べてみました。

校門やグランド周辺で採集。何度も洗って、約２か月半の天日干し。そして、加工法も調べました。

栃の実の加工と過程について

栃の実灰汁抜き加工

① 虫だし　2，3日水につける。

② 天日乾燥　水を切って１か月乾燥させる。

③ 皮むき　乾燥後加熱し、皮をむく。
灰を落とすように水洗いする。

④ 冷水処理　皮をむき約７日間冷水に浸す。

⑤ 灰がき１　木灰に熱湯を混入し中和剤を作成する。

⑥ 灰がき２　液状化した木灰に栃の実を投入する。

⑦ 灰がき３　投入した栃の実と木灰を混ぜ合わせる。

⑧灰がき４　保温のため上に灰をならす。

⑨灰がき処理　１日ほど屋内で保温する。

⑩水洗い　栃の実を容器に移し替え、

⑪灰汁抜き完成　もち米２升に対し栃の実１升を適当に分別する

今回は、工程②までできました。
これ以降は、時間を見てゆっくり進めていきたいと思います。

活動⑤　呉　尚浩先生から学んだこと

取材日：6月9日（火曜日）午後

取材場所：小国高等学校会議室

☞☞☞プロフィールなど☞☞☞

○神奈川県出身

○東北公益文化大学教授

≪先生から学んだこと≫

・・Oguu を作成するにあたって・・

○小国町に対する誇りを持って町や人を見てみよう

○今の小国町に対する見方と違う角度から小国町を見たり考えたりしてみよう

○広い視野を持って活動する

○いろいろな発見を楽しもう

○「取材された人、取材した人、読者が楽しめる」記事を作成しよう

≪呉先生の生き方について≫

1　呉先生の育った環境と大学の先生になった理由

父が大学の先生、母がピアニストをしていて、呉先生は父のようになりたくて大学の先生になった。

2　地域活動に興味を持ったきっかけ

最初はボランティアにあまり興味はなかったが、阪神淡路大震災の時、大阪や神戸の人たちはボランティアに積極的ではなかったので、FAXで助けを求められた。

大学の友達を集めてボランティア活動を始めた。当時の神戸は火災の被害が凄く、風呂にも入れない状態だった。

そこで、少しでも疲労を癒し、気分を良くしてもらおうと思って足湯ができる場所を開設した。

その足湯体験を通して、被害に遭った人たちも、閉ざしていた心を開くようになっていった。その後、足湯は他のボランティア団体にも広まって大反響だった。

そのうちに、被災した方々自身や子供たちもボランティア活動を手伝ってくれた。

このような経験を通し、自分がしたことで相手が喜んでくれたことや、被災者の方に励まされ

たこともあって感動を共にすることができてすごくうれしかった。

3　呉先生のその後の研究活動について

○森・川・海づくりグループ

→森-川-海のつながり・多様性のある自然環境保全のありかたを考える

○農と食グループ

→環境にも体にもやさしい農と食のあり方を考える

○学びグループ

→「いきいきと学ぶ」生きる本来の力を発揮する教育のあり方を考える

○公益社会グループ

→「公益的な社会とは何か？」を考える

○島づくりグループ

→自然の暮らしの「豊かさ」を活かす島づくりを考える

呉先生が見せてくださったビデオの中で、大学生がとても楽しそうに取材活動をしていたのが印象的だった。自分たちも、楽しみながら、小国町の素晴らしさを改めて発見したり、小国の人たちのあたたかさを紹介したりしたい。（笠原一希）

Oguu　特別企画PART1　～私たちの『Life　is　Fantastic！』～

美しい小国
面白い仲間
貴重な一瞬
小国高校でしか
味わえない青春

Challenge

～人のため自分のため～

人生のすばらしさとは・・・

編集メンバー

◎佐藤梨菜　○齋藤鮎香　○阿部明日香　○小田七海

◎笠原一希　○和田晟弥　○山村晃生　○渡部倖大

撮影：佐藤梨菜